



2008年12月4日

音の日にあたって

日本オーディオ協会 会長 校條亮治

音の日の意義

12月6日は「音の日」です。今から131年前の12月6日に発明王「トーマス・エジソン」が蝋管に音を記録した日です。オーディオの歴史はエジソンがこの「フォノグラフ」を発明し、それまでは時空間しか捕らえられず瞬時に消えていく「音」を、回転する蝋管に記録・保存・再生に成功したことに始まります。

日本オーディオ協会は14年前の法人化を機に、賛同他団体の協賛を得てこの日を「音の日」として制定し、「音」及び「音楽」に関する啓発行事や事業を展開しています。今でこそ誰もがいつでも、どこでも簡単に音楽を聞くことが出来ますが、これも蝋管から始まって、SP・LPレコード、磁気テープ、そしてアナログ技術からデジタル技術の発展に伴い光ディスク、ハードディスク、メモリーチップと、130年間にわたる技術者のたゆまぬ努力による技術進化のお陰といえます。

公益法人としての社会貢献活動

コンテンツの充実やそれ自体のクオリティーの高さもたゆまぬ進化を遂げています。協会では「音の日」にちなんで、「音」や「音楽」を通して生活や文化に貢献された方々を「音の匠」として、また「音楽制作」や「放送番組制作」を通して優れた「音づくり」に貢献されたエンジニアの方々を「日本プロ音楽録音賞」として表彰し、「音」や「音楽」の文化と技術発展のためにたゆまぬ活動を続けています。

さらに「音の日」前後には、会員企業が全国のショールームや特設会場、販売店などにおいて「音楽文化」啓発の視聴イベントを展開しており、持参のソフトを試聴することも出来ます。

これらの詳細は協会のホームページで知ることが出来ます。これらの活動は公益法人としての証でもあり、社会貢献活動の一環であると自負をしています。

サラウンドサウンドの普及

現在のアナログTV放送は2011年にはすべてデジタル放送に変わります。協会はサラウンド音声番組の増加に向けて関係方面に働きかけています。音声信号が5.1chサラウンドになることに

より、TVが単に情報伝達機器であったものが「音と映像」によるサラウンドサウンド・シアター文化を楽しむものに変身します。まさに「音」や「音楽」「映像」に関する新しい文化の始まりです。協会は新しい文化創造活動として強力に取り組んでまいります。

質の高いオーディオ文化による感動の世界を目指して

私たちは日々の生活の中で「音楽」なしで生活することはいまや不可能です。技術の発達のお陰でどこでも、いつでも、好きな音楽を聴くことは出来ますが、必ずしも機器から使い方を含めすべてにおいて高い満足が得られているとはいえません。現代人は忙しく、情報過多といわれますが感動深い情報は多くはありません。こんな時代であるからこそ、多くの「感動体験」が必要であるといえます。

こんなときもっとも身近で「感動体験」が出来るのが「音楽 = オーディオ」の世界であるといえます。「楽しさと人間らしさにあふれた社会を創造する」ために、携帯オーディオとホームオーディオの融合など、これからも「感動の世界」を会員企業、関係諸団体の協力の下に精一杯進めてまいります。具体的には明年、2月21日～23日にかけて「横浜パシフィコ」にて開催予定の「A&Vフェスタ2009」にて徹底的に感動体験の場を提案してまいりますのでご期待をいただきたいと思います。